

平成24年度
発達障がい者就業支援
コーディネーター事業報告

大阪市障がい者就業・生活支援センター

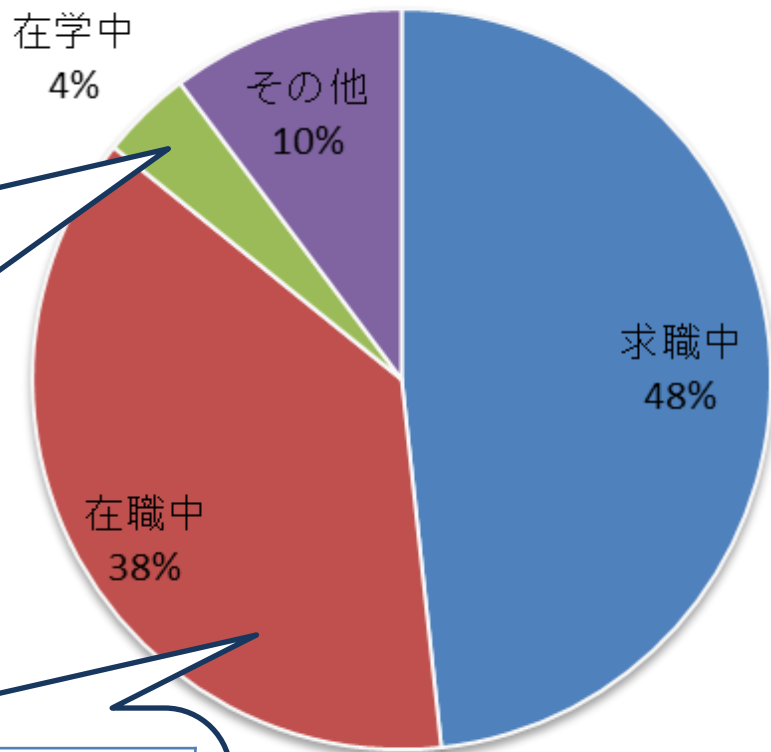
平成24年度 登録者の状況

(以降のデータは平成25年3月31日のもの)

登録者数		176名
内訳	①前年度からの 継続支援者	94名
	②平成24年度 新規相談者	82名

- ・「登録者」とは、継続した就労支援を希望している者
- ・4年以上継続して関わっている登録者の存在→長期にわたる支援の必要性

①登録者の状況



人数内訳	
求職中	85名
在職中	66名
在学中	7名
その他	18名
合計	176名

在学者の内訳

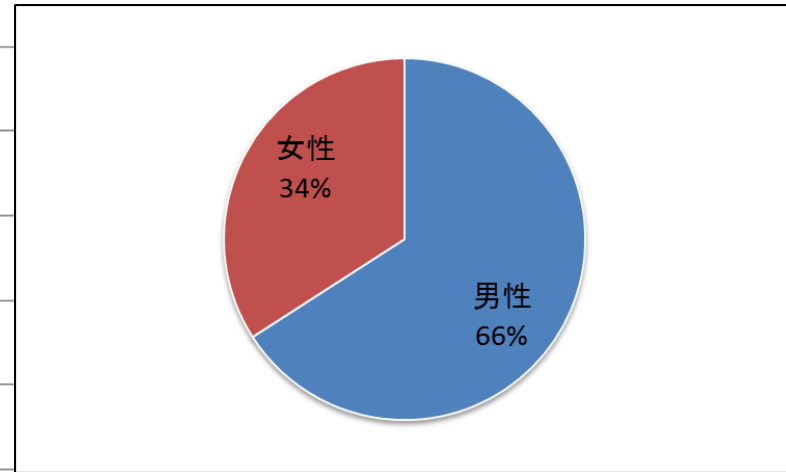
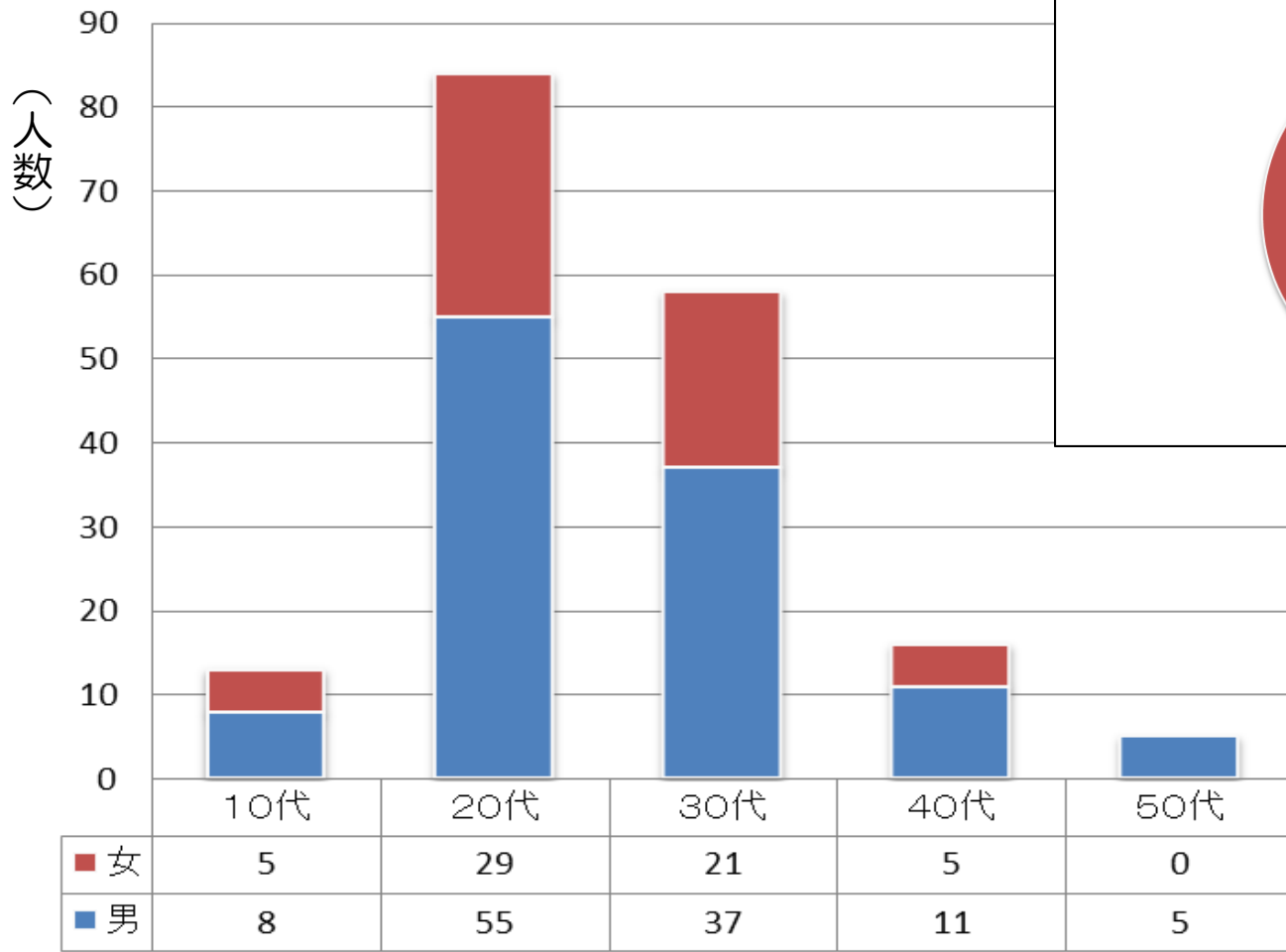
高等学校	2名
専門学校	1名
大学	4名

在職者の内訳

障がい者雇用	48名
一般雇用	16名
一般雇用 (休職中)	2名

- ・就ポツの支援開始後に就労する人は「障がい者雇用」を選択する人が多い
- ・「一般雇用」の人は、就職後に障害に気付いた人、障がいがある事を伝えずに働いている人

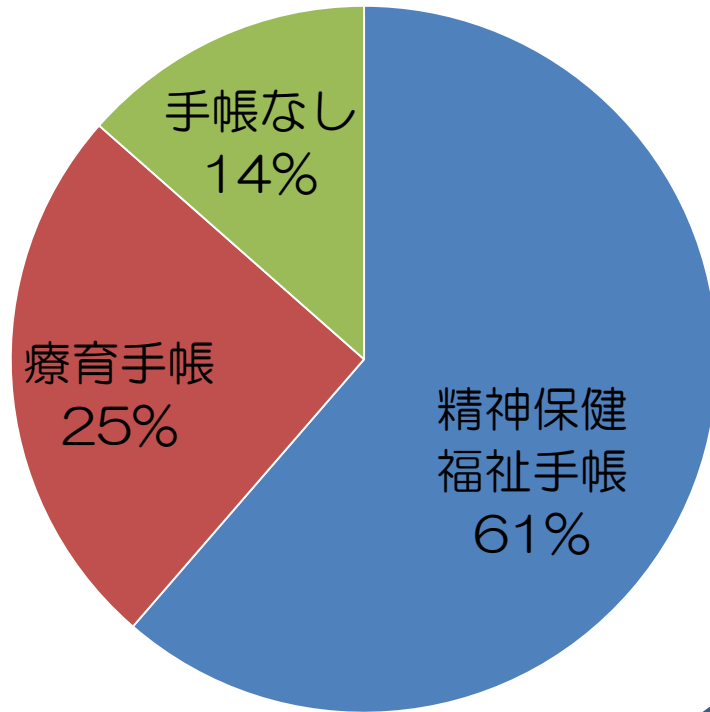
②年齢層



全体の男女内訳	
男性	116名
女性	60名
合計	176名

- ・ 20代～30代の相談が中心
- ・ 年齢が上がると女性相談者は減少

③所持している手帳の種類



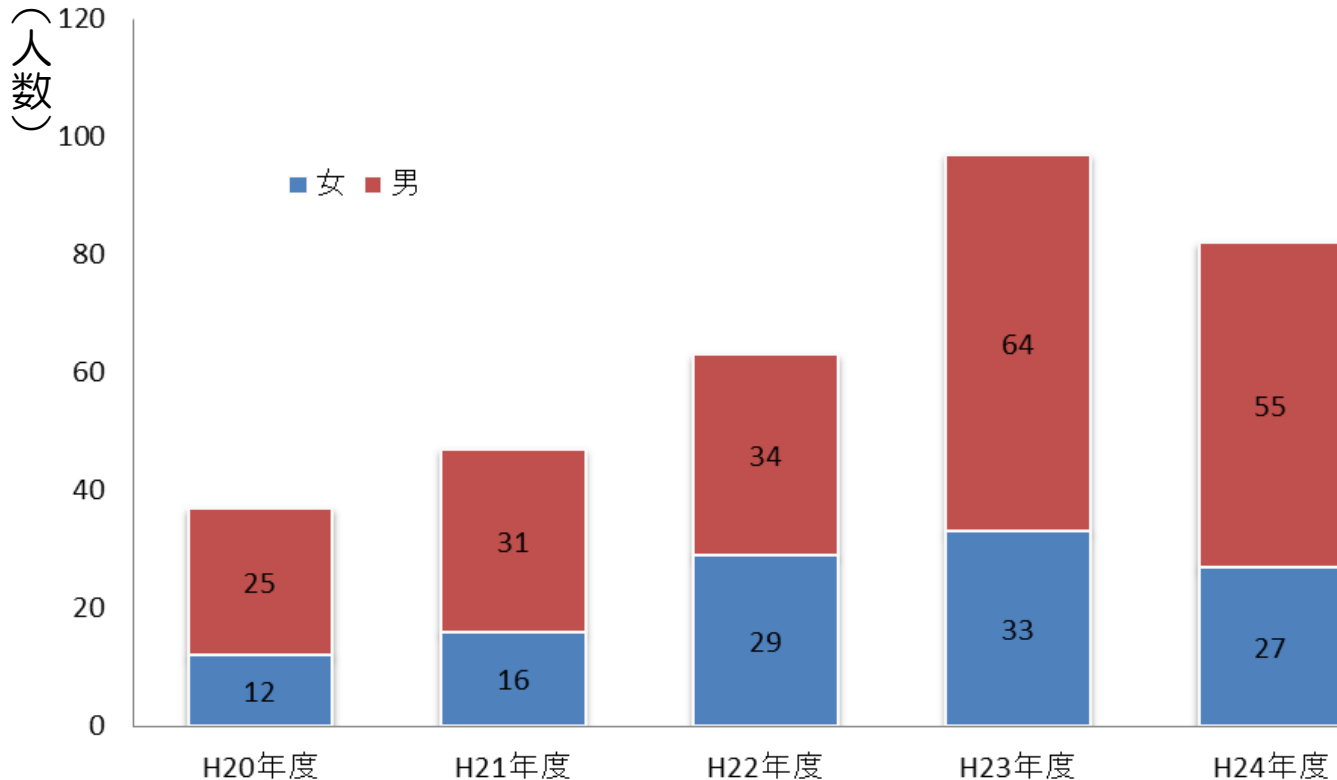
支援機関との関わりの中で
障がい者手帳取得を検討し、
取得を決める人が多い

	継続支援者	平成24年度 新規相談者	合計
精神保健福祉手帳	62名	46名	108名
療育手帳	27名	16名	43名
手帳なし	5名	20名	25名

(2) 新規相談者の状況

相談者数の変化

新規 相談者	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	合計
	37名	47名	63名	97名	82名	326名

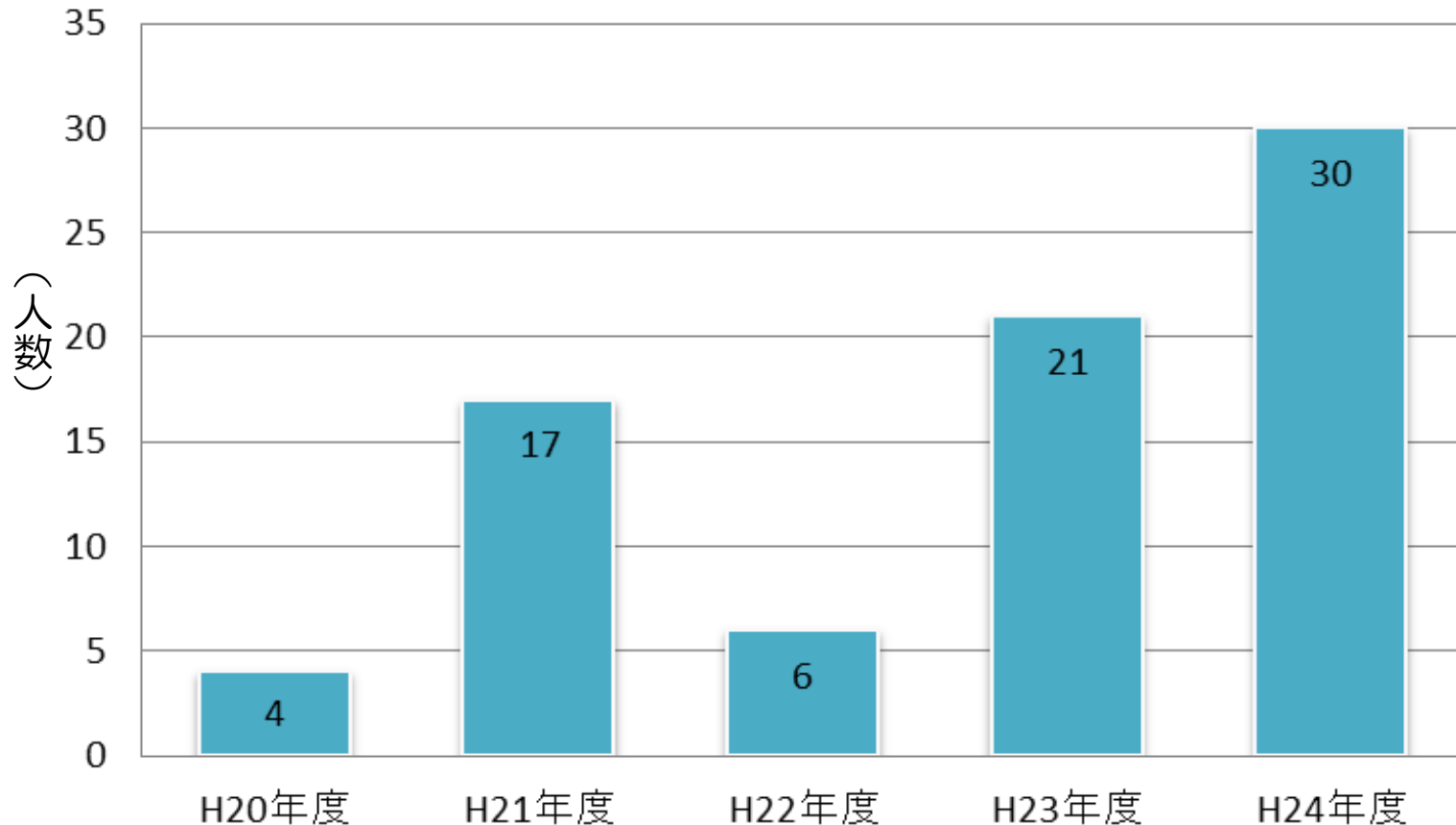


・相談者は依然として多い

・発達障害者を対象とした就労支援サービスが増えて来ているが、その活用方法や組み合わせ、就労継続を支援する環境づくりはなかなか浸透していない

・発達障害のある人の中には単独ではサービスにつながっていくことが難しい人もいるため「情報を整理し、必要な窓口につながるきっかけを作る」支援が重要になる。

(3) 就職者の状況



- ・ 就労前に訓練等の職業準備を行うことで、確実な就労につながっている。
- ・ 職業準備は特性の整理、苦手を補う工夫、人との関わり方の学びなど体験を通しての学びが中心となるので、数か月～数年と時間がかかることが多い。